

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-29100

(P2009-29100A)

(43) 公開日 平成21年2月12日(2009.2.12)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 4 2 F 7/00 (2006.01)	B 4 2 F 7/00 G	2 C 0 1 7
B 4 2 F 5/04 (2006.01)	B 4 2 F 5/04 A	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2007-297126 (P2007-297126) (22) 出願日 平成19年11月15日 (2007.11.15) (31) 優先権主張番号 特願2007-166969 (P2007-166969) (32) 優先日 平成19年6月25日 (2007.6.25) (33) 優先権主張国 日本国(JP)	(71) 出願人 390006921 ナカバヤシ株式会社 大阪府大阪市中央区北浜東1番20号 (74) 代理人 100065215 弁理士 三枝 英二 (74) 代理人 100114616 弁理士 眞下 晋一 (74) 代理人 100124028 弁理士 松本 公雄 (74) 代理人 100124039 弁理士 立花 顕治 (72) 発明者 林 正人 大阪府大阪市城東区中央2丁目1-23 ナカバヤシ株式会社大阪支社内 Fターム(参考) 2C017 JA05 QA03 QB03 QB06 QD01 QD04
--	--

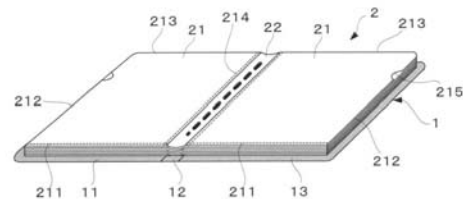
(54) 【発明の名称】 書類ホルダー

(57) 【要約】

【課題】書類などをしっかりと収納することができ、しかも捲りやすい書類ホルダーを提供する。

【解決手段】本発明に係る書類ホルダーは、書類を保持する複数の書類保持体2と、表表紙11、裏表紙13、及び背表紙12を有し、書類保持体2が固定される表紙材1と、を備え、各書類保持体2は、シート状材料で形成され、書類を保持可能な書類保持部21と、この書類保持部21に連結され、これよりも柔軟なシート状材料で形成された連結部22と、を備えており、複数の書類保持体21は、重ね合わされており、重ね合わされた各連結部22が表紙材1に固定されている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

書類を保持する複数の書類保持体と、
表表紙、裏表紙、及び背表紙のうち、少なくとも表表紙及び裏表紙を有し、前記書類保持体が固定される表紙材と、を備え、
前記各書類保持体は、
シート状材料で形成され、書類を保持可能な書類保持部と、
前記書類保持部に連結され、当該書類保持部よりも柔軟なシート状材料で形成された連結部と、を備えており、
前記各書類保持体の連結部は、前記表紙材に固定されている、書類ホルダー。

10

【請求項 2】

前記各書類保持体は、一对の前記書類保持部の間に、前記連結部を挟むように連結することで構成されており、
前記複数の書類保持体は、重ね合わされ、
重ね合わされた前記各連結部が前記表紙材に固定されている、請求項 1 に記載の書類ホルダー。

【請求項 3】

前記書類保持部は、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料で形成され、四辺のうち、少なくとも隣接する二辺において前記二枚のシート状材料が連結されている、請求項 1 または 2 に記載の書類ホルダー。

20

【請求項 4】

前記書類保持部は、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料で形成され、前記連結部と連結される辺と隣接する辺のうち、少なくとも一方の辺には、マチが形成されている、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の書類ホルダー。

【請求項 5】

前記書類保持部は、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料で形成され、対向する一对の辺の少なくとも一方の長さに差を設けることで、前記連結部と連結される辺以外の辺の少なくとも一つでは、所定長さだけ、前記両シート状材料が重なっていない領域が形成される、請求項 1 から 4 のいずれかに記載の書類ホルダー。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】**【0001】**

本発明は、書類、写真等のシート状のものを収納する書類ホルダーに関する。

【背景技術】**【0002】**

書類、写真などのシート状のものを収納する書類ホルダーとしては、種々のものが提案されている。例えば、特許文献 1 は、硬質のシート材からなる表紙材に、書類入れが複数固定された書類ホルダーが記載されている。より詳細に説明すると、書類入れは、矩形状に形成された 3 枚の軟質のシート材からなり、不透明のシート材の両面に、透明のシートがそれぞれ融着されることで、書類などを収納する 2 つのポケットが形成されている。透明のシート材は、4 辺のうち、2 辺でのみ不透明のシート材に融着されており、融着されていない 2 辺から書類の収納が行われる。一方、表紙材は、表表紙、背表紙、裏表紙から構成され、背表紙の内側に書類入れの一边が融着されている。

40

【特許文献 1】実開平 1 - 1 4 1 0 7 7 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

しかしながら、上記書類ホルダーは、書類入れが軟質のシート材から形成されているため、折れ曲がりやすく、収納している書類が傷みやすいということがあった。また、開放された 2 辺が折れ曲がると見栄えが悪くなるという問題があった。これに対して、書類入

50

れを硬質の材料で形成することも考えられるが、次のような問題がある。すなわち、書類入れは、背表紙に対してヒンジのように捲られるのであるが、硬質材料であると、捲りにくいことがある。また、表表紙及び裏表紙が水平になるように開いたときに、書類入れが開きにくく、見開きにすることが難くなる。さらに、材料の反発力によって書類入れが反り返ったり、無理に見開きにすると、折り目が付くことがあり、取り扱いにくいという問題がある。

【 0 0 0 4 】

本発明は、上記問題を解決するためになされたものであり、書類などをしっかりと収納することができ、しかも見開きがしやすい書類ホルダーを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

10

【 0 0 0 5 】

本発明に係る書類ホルダーは、上記問題を解決するためになされたものであり、書類を保持する複数の書類保持体と、表表紙、裏表紙、及び背表紙のうち、少なくとも表表紙及び裏表紙を有し、前記書類保持体が固定される表紙材と、を備え、前記各書類保持体は、シート状材料で形成され、書類を保持可能な書類保持部と、前記書類保持部に連結され、当該書類保持部よりも柔軟なシート状材料で形成された連結部と、を備えており、前記各書類保持体は、前記表紙材に固定されている。

【 0 0 0 6 】

この構成によれば、背表紙と連結されている連結部が、書類保持部よりも柔軟な材料で形成されている。連結部は、書類保持部をめくる場合のヒンジのような役割を果たすため、これが柔軟な材料で形成されていると、書類保持部を見開いた状態に保持しやすくなる。すなわち、希望の書類保持部を開いて手を離しても、書類保持部が見開き状態から反発して元の状態に戻ることがない。そのため、書類保持部が捲りやすくなるという利点もある。一方、書類保持部は、連結部よりも硬質な材料で形成されているため、書類をしっかりと保持することができる。

20

【 0 0 0 7 】

上記書類保持部は、一の書類保持部と一の連結部とを連結することで構成する以外に、例えば、一对の書類保持部の間に、連結部を挟むように連結することで構成することができる。このとき、複数の書類保持体は、重ね合わされ、重ね合わされた各連結体を表紙材に固定することが好ましい。なお、連結体は、表紙材のうち、背表紙、表表紙、裏表紙のいずれの位置に固定してもよい。また、表紙材は、背表紙がない2つ折りのものを用いることもできる。

30

【 0 0 0 8 】

上記各書類ホルダーにおいて、書類保持部は、書類を保持できるように構成されていれば、特に限定されない。例えば、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料で形成し、四辺のうち、少なくとも隣接する二辺においてこれら二枚のシートを連結することで構成することができる。この場合、開放されている辺を連結部と連結するようにしてもよいし、或いは、閉じている辺を連結部と連結してもよい。なお、二枚のシートは一体的に形成することもできる。すなわち、一枚の矩形状のシート状材料を二つ折りにした状態で、一つ辺を接着すると、二辺が開放した書類保持部となる。その他、四辺のうち、一辺のみを開放したり（非接着にしたり）、3枚のシート状材料を重ね合わせ、2つのポケットを有するように構成したり等、書類が収納できる限り、種々の態様にする事ができる。

40

【 0 0 0 9 】

また、書類保持部を、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料で形成する場合、連結部と連結される辺と隣接する辺のうち、少なくとも一方の辺に、マチを形成することができる。「マチ」とは、二枚のシート状材料の連結部分に厚みを持たせるような面をいう。例えば、二枚のシート状材料の下方の辺に底面となるような面を設けることができる。このようなマチを設けることで、二枚のシート状材料の間に、多数枚の書類を収納することができる。また、この面を折り畳むように折り目を設けると、底面となるマチが折り畳まれ、書類ホルダーを高張らないようにすることができる。

50

【 0 0 1 0 】

さらに、書類保持部を、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料で形成する場合、2枚のシート状材料において、対向する一对の辺の少なくとも一方の長さに差を設けることで、連結部と連結される辺以外の辺の少なくとも一つにおいて、所定長さだけ、両シート状材料が重なっていない領域を形成することができる。このようにすると、重ね合わされた二枚の矩形状のシート状材料が開きやすくなり、書類を両シート状材料の間に容易に挿入することができる。両シート状材料が重なっていない領域は、いずれの辺であってもよいが、例えば、書類保持部を構成する2枚のシート状材料のうち、一方のシート状材料における小口から背に向かう方向の長さを短くすることができる。これにより、小口に対応する辺において、二枚の矩形状シートが重ならない領域が形成される。

10

【 発明の効果 】

【 0 0 1 1 】

本発明に係る書類ホルダーによれば、書類などをしっかりと収納することができ、しかも見開きやすくすることが可能となる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 2 】

以下、本発明に係る書類ホルダーの一実施形態について図面を参照しつつ説明する。図1は本実施形態に係る書類ホルダーを見開き状態にしたときの斜視図であり、図2は図1の書類ホルダーの製造過程を示す斜視図であり、図3は図1の書類ホルダーを折りたたんだ状態の斜視図である。

20

【 0 0 1 3 】

図1に示すように、本実施形態に係る書類ホルダーは、コ字状に折り曲げ可能な表紙材1に、書類が保持される複数の書類保持部2を取り付けることで構成されている。表紙材1は、硬質の材料で形成された表表紙11、背表紙12、及び裏表紙13からなり、幅の狭い背表紙12を挟むように、表表紙11及び裏表紙13が折り曲げ可能に連結されている。

【 0 0 1 4 】

各書類保持部2は、書類を収納する一对の書類保持部21と、両書類保持部21の間に連結される連結部22とから構成されている。各書類保持部21は、矩形状の硬質の樹脂フィルム（シート状材料）を二つ折りにし、その周縁の四辺のうちの一の短辺211を熱融着、超音波融着などで接着することで構成されている。これにより、書類保持部21は、四辺のうち二辺212、213が非融着で開放し、ここからフィルムの間に書類を収納できるようになっている。開放している長辺212においては、重ね合わされた樹脂フィルム的一方に、半円形の切り欠き215が形成されており、この切り欠き215によって、一方のフィルムを捲りやすくしている。

30

【 0 0 1 5 】

連結部22は、書類保持部21よりも柔軟な樹脂フィルムによって形成され、背表紙12より、やや幅の狭い矩形状に形成されている。そして、対向する長辺それぞれに、書類保持部21が連結されている。より詳細には、書類保持部21において、開放している長辺212とは反対側の長辺214が、連結部22に熱融着、超音波融着などによって連結されている。

40

【 0 0 1 6 】

なお、表紙材1、書類保持部21、連結部22は、例えば、ポリプロピレンなどの樹脂フィルムで形成することができる。表紙材1は、書類保持部2を保護するという役割も果たすことから比較的厚い0.4～1mmのフィルムで形成されている。また、書類保持部21は、厚さが0.18～0.22mmのフィルムで形成され、これによって開放部分が折り曲がるのを防止し、書類をしっかりと保持するようにしている。一方、連結部22は、それよりも薄い0.08～0.12mmの柔軟なフィルムで形成されている。例えば、書類保持部21を約0.2mmの樹脂フィルムで形成する一方、連結部22を約0.1mmの樹脂フィルムで形成することができる。このように本実施形態では、フィルムの厚さ

50

を変えることで、書類保持部 2 1 及び連結部 2 2 を所望の硬さに設定している。

【0017】

上記のように構成された書類保持体 2 は、図 2 のように重ね合わされた後、各連結部 2 2 を貫通するように、これらを熱融着によって背表紙 1 2 に固定している。このように組み立てられた書類ホルダーは、図 3 に示すように、表紙材 1 を折りたたむと、書類保持体 2 が連結部 2 2 で二つ折りにされた状態で、表表紙 1 1 と裏表紙 1 3 との間に挟まれる。そして、図 1 に示すように、表紙材 1 を開いた状態では、連結部 2 2 がヒンジとして機能し、書類保持部 2 1 を捲ることができる。

【0018】

上記書類ホルダーの製造方法としては、次の例を挙げることができる。すなわち、まず、複数の書類保持部 2 1 を予め作成しておき、短冊状に形成された連結部 2 2 を治具に保持しておく。そして、この治具に対し、2 枚の書類保持部 2 1 を、連結部 2 2 の各長辺と重なるように供給し、重なった部分を超音波融着することで、書類保持体 2 を形成する。続いて、書類保持体 2 を複数枚重ね、表紙材 1 が配置された治具に供給し、書類保持体 2 の連結部 2 2 が、表紙材 1 の背表紙 1 2 上に配置されるように位置決めする。その後、連結部 2 2 と背表紙 1 2 とを熱融着によって固定する。

【0019】

以上のように、本実施形態によれば、背表紙 1 2 と連結されている連結部 2 2 が、書類保持部 2 1 よりも柔軟な材料で形成されている。上述したように、連結部 2 2 は、書類保持部 2 1 をめくる場合のヒンジのような役割を果たすため、これが柔軟な材料で形成されていると、隣接する 2 枚の書類保持部 2 1 をほぼ水平に見開いた状態にしやすくなり、取り扱いが容易になる。例えば、硬質の書類保持部を直接、背表紙に固定すると、希望の書類保持部 2 1 を開いて手を離れたときに、書類保持部 2 1 が見開き状態から反発して元の状態に戻ることがあり、取り扱いにくいという問題がある。これに対して、本実施形態のように構成すると、柔軟な連結部が容易に折れ曲がるため、上記問題を解決することができる。一方、書類保持部 2 1 は、連結部 2 2 よりも硬質な材料で形成されているため、書類をしっかりと保持することができる。

【0020】

この実施形態では、書類保持部 2 1 の開放している側の長辺 2 1 2 が外部に向いているため、ここから収納した書類が脱落するおそれがあるが、これに対しては、公知の飛び出し防止技術を適用することで、脱落を防止することができる。例えば、図 4 (a) に示すように、書類保持部 2 1 において重ね合わせたフィルム的一方に、半円状の突出部 2 4 を形成し、図 4 (b) に示すように、これを他方のフィルムを覆うように折り返す。こうすることで、突出部 2 4 によって書類の脱落が防止できる。また、表紙材 1 を折りたたんだときに、表表紙 1 1 と裏表紙 1 3 とが離間しないように、例えば、紐 3 (図 5 参照)、ボタン、面ファスナー等の固定手段で固定することでも、書類の脱落を防止することができる。

【0021】

以上、本発明の一実施形態について説明したが、本発明は、これに限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない限りにおいて種々の変更が可能となる。例えば、上記実施形態では、書類保持部 2 1 の閉じている長辺 2 1 4 を連結部 2 2 に連結しているが、図 5 に示すように、これとは反対に、開放している側の長辺 2 1 2 において、重ね合わされた一方のフィルムを連結部 2 2 に連結することもできる。こうすることで、開放している長辺 2 1 2 が背表紙 1 2 側を向くため、表紙材 1 を折りたたんだときに、書類保持部 2 1 から書類が脱落するのを防止することができる。

【0022】

書類保持部 2 1 の形態は、上記以外でもよく、書類を保持できるような形態であれば、特に限定されない。

【0023】

また、連結部 2 2 と書類保持部 2 1 との連結は、熱融着以外でも、接着剤による接着等

10

20

30

40

50

、種々の方法がある。連結部 2 2 と背表紙 1 2 との接続は、熱融着以外であってもよく、例えば、各連結部 2 2 に穴を形成し、すべての連結部 2 2 を貫通するようなピン、紐などを背表紙 1 2 に固定することも可能であり、その他、種々の方法を採用することができる。また、熱融着のように、連結部 2 2 を恒久的に表紙材に固定する以外に、公知の綴じ具で、書類保持体 2 を着脱自在に表紙材に固定することもできる。

【 0 0 2 4 】

また、連結部 2 2、及び書類保持部 2 1 の硬さは、フィルムの厚さによって設定する以外に、材料を変えることで設定することもできる。つまり、厚さは書類保持部 2 1 と同じでも、より柔軟な材料で連結部 2 2 を構成することができる。したがって、上述した効果を得ることができるように、書類保持部 2 1 と連結部 2 2 の硬さが設定されていればよい。なお、表紙材 1 は、樹脂材料以外でも硬質の紙などを用いることもでき、連結部 2 2 を固定できるのであれば、特に限定されない。

【 0 0 2 5 】

上記実施形態では、一对の書類保持部 2 1 で連結部 2 2 を挟むことで書類保持体 2 を形成し、これを表紙材 1 に固定しているが、図 6 に示すように、一の書類保持部 2 1 と連結部 2 2 とで、書類保持体 2 を形成し、これを複数重ね合わせた後、背表紙 1 2 の近傍の裏表紙 1 3 に、連結部 2 2 を固定することもできる。

【 0 0 2 6 】

また、書類保持部 2 1 を矩形状に形成する場合、フィルムの方の短辺 2 1 1 にマチを設けることができる。図 7 は、マチを設けた書類保持部の例を示しており、図 7 (a) は書類保持部の斜視図、図 7 (b) は書類保持部を小口側から見た断面図、図 7 (c) は書類保持部の正面図である。同図に示すように、書類保持部 2 1 の下方の短辺 2 1 1 には、中央に折り目が設けられたマチ 2 3 が設けられており、書類保持部 2 1 の底面として機能する。これにより、書類保持部 2 1 に厚みを持たせることができ、多数枚の厚い書類も収納することができる。マチ 2 3 は、短辺 2 1 1 の全長に亘って設ける必要はなく、図 7 (c) に示すように、その一部に設けることもできる。また、この例では、図 7 (c) に示すように、書類保持部 2 1 の表面及び裏面の 2 枚のフィルムの短辺方向の幅に差を設け、小口に対応する長辺 2 1 2 において、両フィルムが重なっていない領域が形成されており、裏面のフィルムの端縁が露出するようになっている。すなわち、表面のフィルムの短辺方向の幅が、裏面のフィルムの短辺方向の幅よりも小さくなっている。このようにすることで、2 枚のフィルムを開き易くなり、これらの間に書類を挿入しやすくなる。

【 0 0 2 7 】

次に、このような書類保持部 2 1 の作製方法の一例を図 8 ~ 図 1 0 を参照しつつ説明する。まず、図 8 に示すようなフィルムの基材 A から書類保持部 2 1 を構成するフィルムを切り出す。図 8 では 4 つの書類保持部 2 1 が表されており、各書類保持部 2 1 を構成するフィルムは、表面及び裏面を構成するフィルムをマチ (詳細図省略) 2 3 で連結することで構成されている。上述したように表面及び裏面を構成するフィルムは、幅が異なっており、マチの部分でずれた状態で連結されている。そして、2 つの書類保持部 2 1 を構成するフィルムが、幅が異なることで、ずれている部分を互いに接合させ全体として長方形をなすように形成されており、この長方形が基材 A 上で並ぶように配置されている。このような基材 A から、図 8 に示す実線を切断することで、書類保持部 2 1 を構成するフィルムを切り出すようになっている。

【 0 0 2 8 】

続いて、図 9 に示すように、切り出された一对のフィルム 2 1 を、小口部分が互いに反対を向き、且つ一方が裏表反対向きになるように並べ、その間に連結部 2 2 を配置する。そして、各フィルム 2 1 をマチ 2 3 の部分で折り曲げるときに、連結部 2 2 を長辺 2 1 4 に挟み込み、挟んだ部分に沿って超音波融着 X を施して連結する。こうして完成した、図 1 0 に示すような書類保持体 2 を複数準備し、表紙材 1 に固定すれば、書類ホルダーが完成する。なお、このような書類ホルダーでは、多数の書類を収納することが予想され、その場合に、書類がホルダーから落下するおそれがあるので、例えば、図 1 1 に示すような

ゴムのバンド 3 などの固定手段を図 5 と同様に設けることが好ましい。

【図面の簡単な説明】

【0029】

【図 1】本発明の一実施形態に係る書類ホルダーを見開き状態にしたときの斜視図である。

【図 2】図 1 の書類ホルダーの製造過程を示す斜視図である。

【図 3】図 1 の書類ホルダーを折りたたんだ状態の斜視図である。

【図 4】書類保持部の他の例を示す平面図である。

【図 5】本発明の書類ホルダーの他の例を示す斜視図である。

【図 6】本発明の書類ホルダーのさらに他の例を示す斜視図である。

10

【図 7】本発明の書類ホルダーのさらに他の例を示す斜視図 (a)、断面図 (b)、及び正面図 (c) である。

【図 8】図 7 の書類ホルダーの書類保持部の元になる基材フィルムの正面図である。

【図 9】図 7 の書類ホルダーの製造方法を示す図である。

【図 10】図 7 の書類ホルダーの製造方法を示す図である。

【図 11】図 7 の書類ホルダーの他の例示す斜視図である。

【符号の説明】

【0030】

1 表紙材

1 1 表表紙

20

1 2 背表紙

1 3 裏表紙

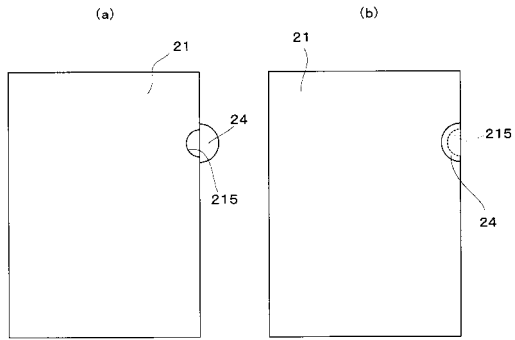
2 書類保持体

2 1 書類保持部

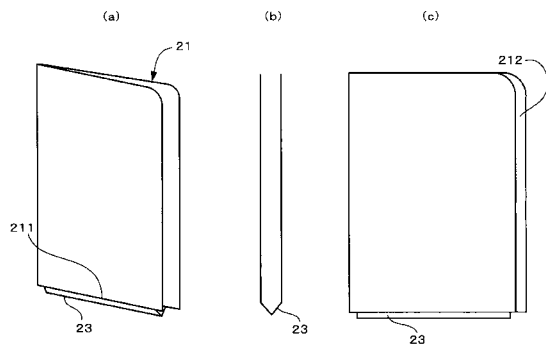
2 2 連結部

2 3 マチ

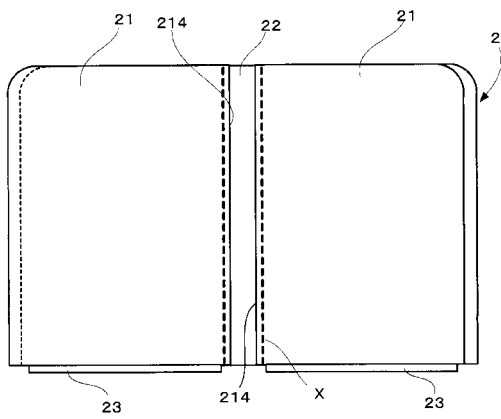
【図 4】



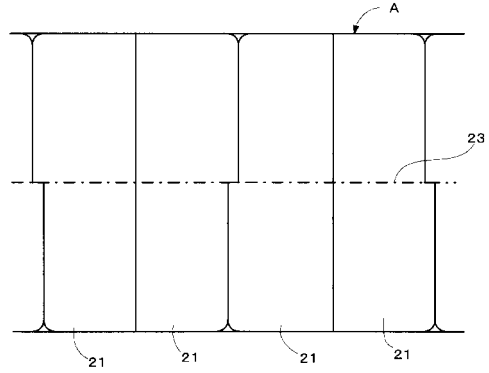
【図 7】



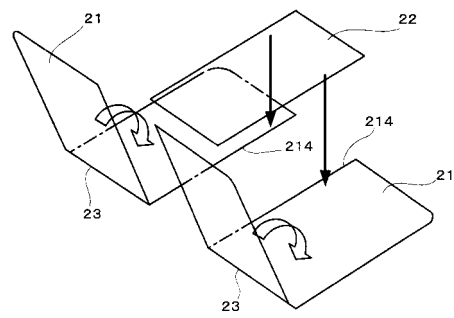
【図 10】



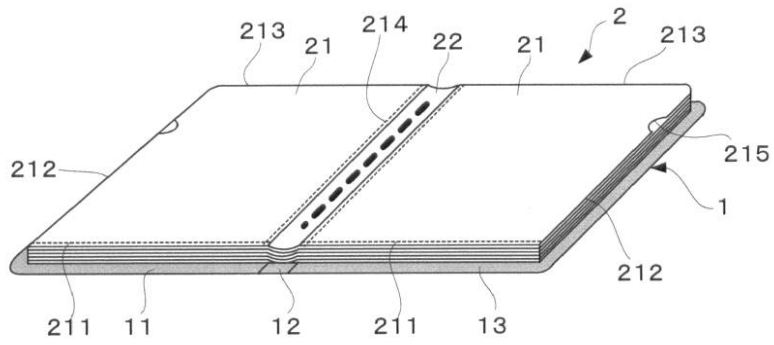
【図 8】



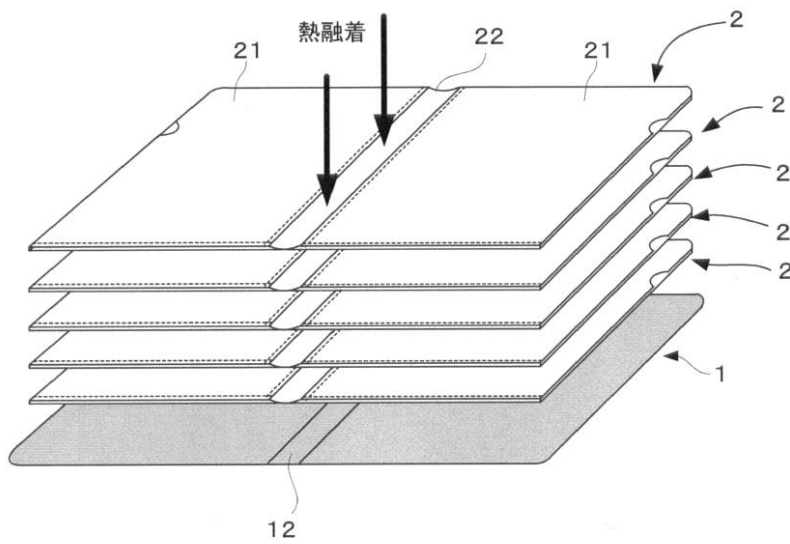
【図 9】



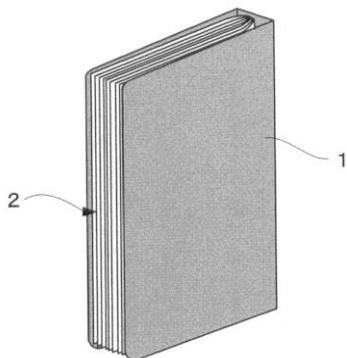
【図 1】



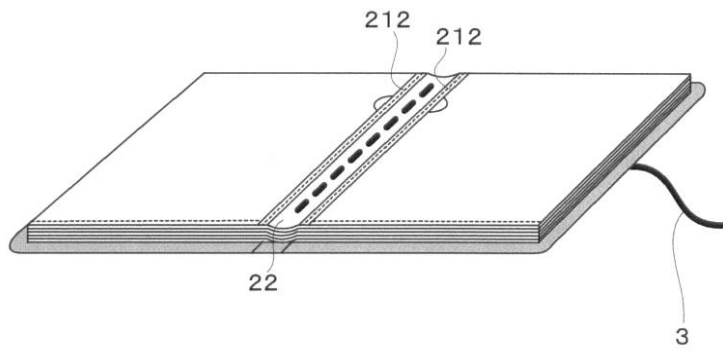
【図 2】



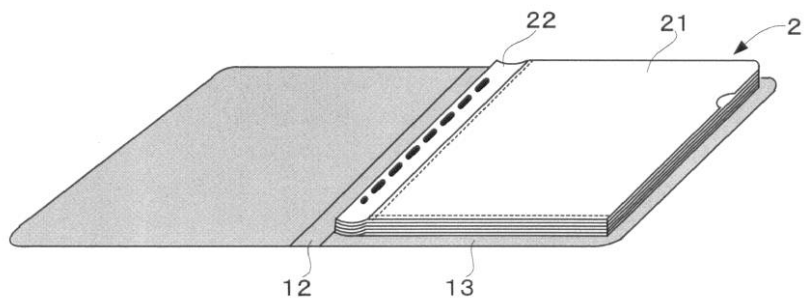
【図 3】



【図 5】



【図 6】



【図 11】

